

令和7年度 第3回 篠原中学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年1月26日(月) 13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 篠原中学校 多目的室
- 3 出席委員 鈴木 幹夫、太田 一夫、河合 洋子、鈴木 幸子、津田 順子、鈴木 好治、
鈴木 登志雄、鈴木 貴子、横井 詠子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 小笠原 正幸（篠原協働センター長）
- 6 学 校 内山 安史（校長）、太田 陽三（教頭）、鈴木 一輝（CS担当教員）、
桔川 祐輝（生徒指導担当教員）、小嶋 慶（教務主任）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CS担当教員 鈴木 一輝

9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、河合委員が、本日の議長を務める事を申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

(1) 学校関係者評価

- ・学校運営に関する評価
- ・学校いじめ防止基本方針に基づく評価
- ・令和8年度学校運営基本方針の提案と検討

(2) 学校運営協議会自己評価と来年度の目標検討

11 会議記録

司会の鈴木一輝から、委員総数9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 学校関係者評価

議長の指示により、教務主任の小嶋から、資料に基づき学校評価アンケートの結果について説明があった。次に、生徒指導主事の桔川から学校いじめ防止基本方針について説明があった。最後に校長から令和8年度学校運営基本方針について説明があった。その後、3グループに分かれて協議。委員からは以下の発言があった。

【Aグループ：鈴木幹夫会長、鈴木好治委員、横井委員】

- ・「大体できている」という評価は、できていない実態を把握できているからこそその側面もある。今後取りこぼしのないように努めていけると良い。
- ・教員と保護者が子供のことを相談し合う中で、見えなかった部分の気づきを促せるような関係ができると良い。

【B グループ：鈴木登志雄委員、津田委員、河合委員】

- ・ 特別活動を通して多様な人との関わりをもつことができている。
- ・ 言葉遣いに関しての取組で、同じ言葉でも人によって受け取り方が違うことを授業で取り扱っているという説明があったが、中学生が多様な価値観を知るうえで大変有用である。絶対的に良くない言葉をあえて扱うことで、全校間で「良くない」という共通認識を図っても良いかもしれない。
- ・ 学校評価アンケートの保護者からの回答で、「わからない」というものがあったが、保護者を巻き込めるような取組が増えると良い。

【C グループ：太田委員、鈴木幸子委員、鈴木貴子委員】

- ・ 未来への挑戦に繋がるような、子供たちの心を刺激する授業に今後も期待したい。
- ・ 地域間のつながりが昔と比べて希薄になっている。大人と子供はもちろん、大人同士の関係も同様である。地域が一体となれるような取組が実施できると良い。

(2) 学校運営協議会自己評価

議長の指示により、別紙の熟議チェックシートへの記入をし、その内容について3グループに分かれて協議。委員からは以下の発言があった。

【A グループ】

- ・ 学校、地域、家庭。それぞれの立場が三位一体になれるようなコーディネートをしたい。そのために、「こういう活動はどうか」と地域や学校、家庭に提案できるような熟議をしていきたい。

【B グループ】

- ・ 昨年度よりも認知度が上がったという報告があったが、体感としてはまだ低いように感じる。今後も認知度の向上を目指したい。

【C グループ】

- ・ 学校支援活動がさらに増やせると良い。学校運営協議会委員だけでなく地域人材を巻き込み、子供たちの将来や生き方に刺激を与えられるような取組を企画したい。

その他報告事項等

- ・ 教頭から、夢育やらまいか事業について、防災学習（1年生）と高校入試面接練習（3年生）に支出した旨の報告があった。面接練習は委員や地域の皆様のご協力のおかげで、緊張感のある実践的な練習を実施できたことについての報告とお礼の言葉があった。
- ・ 校長から、学校運営協議会が今年度4年目を迎えたお礼、教頭から退任される委員の紹介、退任される2名の委員の方々から挨拶があった。
- ・ 司会から、学校協議会委員研修会の案内があった。令和8年2月25日（水）14時00分から篠原中学校多目的室で開催する予定である旨の報告があった。